

第6回 記す

収容所では日常的に所持品検査が行われ、文字が書かれたものも没収の対象でした。

それでも、日々の想いのほか、抑留中に亡くなった仲間の名前や住所を記録するために、検査で見つからないように服に縫い付けたり、靴の中に隠せるような小さなメモ帳を作りました。

やっと長い抑留生活から解放されて帰国できることが伝えられ、引揚船の出港地であるナホトカでも所持品検査がありました。見つければメモ帳が没収されたうえ、再び収容所に連れ戻される恐れがあります。それでも収容所で亡くなった戦友の名前や住所などを記したメモを何とか持ち帰り、日本の家族に伝えたいとの思いで、危険を冒して持ち帰りました。

ところが、夢にまで見た祖国に到着した舞鶴でもGHQにより没収された時期がありました。今回は、そのような何度にもわたる所持品検査を潜り抜けた貴重なメモ帳を紹介します。

○ 館内展示品



(右上)

抑留中の死亡者の名前と日本の住所などが書かれています。

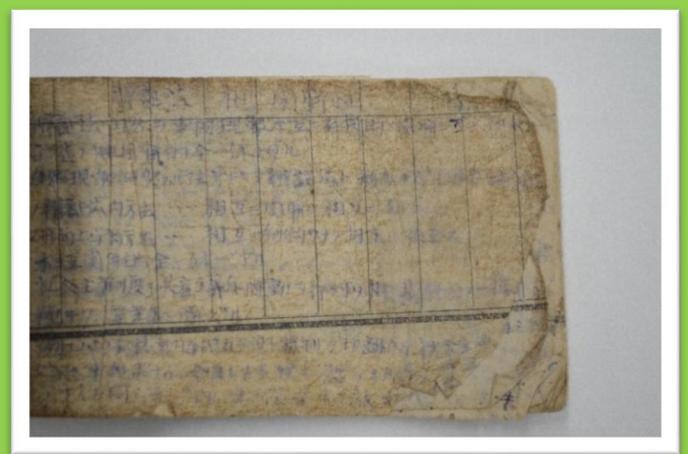
(下)

セメント袋を切って作られ、靴の中に隠して持ち帰りました。抑留中の様子や地図、帰国時の経路などが記入されています。

(左上)

日々の想いや同じ収容所にいた仲間の名前と日本の住所などが記入されています。

○ 収蔵品



収容所内で行われていた共産主義教の内容が書かれています。
靴底に隠して持ち帰りました。